

美和児童館

【活動内容】

- ・ 乳幼児においては、ちびっこあつまれやコアラ教室での活動を通して、親子でふれあう機会の提供と子ども同士の関りを持てるようにし、行事の中で子ども同士がおもちゃのやりとりをしたり、使用する物の貸し借りをする姿が見られた。また、保護者同士のコミュニティーも広がっているように感じる。
- ・ 小学生行事においては、身近な廃材を利用し製作を考え、遊びでは普段体験できないような技法を取り入れ新しい気づきにつなげることを主に取り入れてきた。
- ・ 昨年度に引き続きのコロナ禍ではあるものの、行動制限やマスク着用が緩和されたことにより利用者の予防意識が薄れているように感じたので、声掛けをしたり、掲示物を通して周知した。また、その環境下で館内の利用方法や玩具の取り扱いの見直しや利用しやすい児童館作りに努めてきた。

【反省・課題】

- ・ 様々な行事がある中で、厚生員が主体となって企画・進行を進めてきたが、児童の中には手伝いをしたいと言う声もあるので、「ハロウィンをたのしもう」では小学生にボランティアをお願いした。その他にも季節の準備をしていると飾り付けをしたいなどの声上がるので、来年度は継続的に色々な行事で様々な学年の子ども達が主体となって行事を進めていけるように考え、活動していきたいと思う。
- ・ 利用者の幅が広く、乳児から中学生までが主となっている。そのため夏休や土曜日など1日小・中学生が利用する場合は乳幼児と利用が重なることが多く、乳幼児の保護者からは危険を感じると不安の声が時折聞こえた。厚生員側も、危険になりそうな遊び方や様子の方は声をかけ、乳幼児と小学生の遊びの場の分けを提案するよう務めた。小・中学生児童も、周りをよく見ながら遊んでいる様子が伺えるが、全体が安心安全で遊べる、児童館であるよう環境作りに努める必要がある。
- ・ 全体的に利用人数が減少してきているので、児童館のアピールの方法も検討していく必要がある。

【次年度へ向けての方針】

- ・ 様々な年齢の子どもが主体となって、児童館の行事の準備を進めたり、参加できる機会を少しずつ増やしていきたいと考えている。(行事の企画や、ボランティアなど)
- ・ 利用者全員が安心安全に来館し、充実した遊びができたりするような環境作りを進めていく。
- ・ 児童館便りや子育てカレンダーの配布だけではなく、利用者への声掛けから輪が広がるように努めたり、関係機関(子育て支援センターや保健センター、保育園、小学校など)と連携を深めてアピールする。